

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296800028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム菊川		
所在地	静岡県菊川市堀之内1464		
自己評価作成日	平成27年10月19日	評価結果市町村受理日	平成28年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouCd=2296800028-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菊川GHの運営理念である「安らぎと喜びの家」を目標とし、運営を行っております。例えば入居前のアセスメントにて、その方の家族構成や若い頃の仕事や趣味などを調べ、それをヒントにして色々な取り組みを検討しています。その方の生き方を知ることにより、的確に何をすればいいかを把握し、その方に合った取り組みを行ってまいります。ご家族様との信頼関係が築けられるように、毎月のお便りや電話での連絡などは頻繁に行う事を心掛け、信頼関係の蓄積を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR菊川駅から近いことから駅前赤レンガ倉庫を目指した散歩が慣行され、開発が進む駅北にはカインズ、遠鉄ストア、マツモトキヨシが林立し、買い物レクが便利となっています。同様に福祉施設の増加により職員の入れ替えが続きましたが、現在は平常を取り戻しています。このような波風があると家族アンケートに苦情めいた文言が挙がりますがまったくないとともに、法人が「こういうこと(空室や職員の入れ替え)もあるよ。気にせずこれまで通りに」とエールを送ってくださるといふ点も驚きで、事業所が培ってきた「信用」の大きさを改めて確認しました。空室については引き続き対策を推進中で、早期の満室が祈念されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念を朝礼時に唱和し、夕方の申し送り時にはホームの運営理念を唱和して、意識の向上及び共有を図っている。	「理念は常に目に入るよう掲示し、唱和もおこなっているが理解できているとは言い難い」と謙虚ですが、実践報告会の記録には日頃のきめ細かい取組みが綴られ「安らぎと喜びの家」への確かな歩みが伝わります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会主催の清掃活動に参加したり、周辺に散歩に出かけた時は、挨拶を心掛けている。地域からの要望でボランティアの受入も行った。(10/29、30中学生福祉体験実施予定)	傾聴ボランティアのほか腹話術や歌謡ショー、福祉体験の受入も長く継続しています。中学生には車いすの体験をもらい、また納涼祭に近隣50軒ほどへポストイングするという新たな試みもおこなっています。	園児、児童と出会う機会が加わり、異世代交流が広がることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校からの福祉体験授業の受入を行っている。認知症サポーターのとして、地域の認知症講座の講師として説明も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催を実施しており、市職員、民生委員、近隣特養施設長、ご家族様、入居者様の参加にて行っている。	行政、地域、家族のほか有識者の出席もあり、報告を含み身近な題材を以て定期開催が叶っています。9月には利用者5名が加わり、スライド上映と茶話会で意気が高まり、若い頃の話もでて盛り上がりました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場や、適宜行政なども訪問したりして、協力関係を築いている。	運営推進会議では専門的な説明を毎回もらっており、事業所でも法人冊子『つながり』を携えて出向いています。本年7月には福祉マップづくり委員会での認知症サポーター養成講師を依頼され引き受けています。	多忙とのことで自治会長の欠席が続いています。無理にお願いするものでもないため、今後は「自治会に必要とされる事業所とは」を検討することを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、社内的にもマニュアルがあり、ホーム内研修も実施して職員の意識徹底に勤めている。年1回の研修を実施。	玄関施錠はありませんが不安定な利用者が気がかりで西ユニット入口は開放できていないため「恒常化するのは回避したい」として機会あるごとに話材にしています。年間研修計画に組入れるほか、転倒事故には緊急会議にて原因追求とリスクを精査しています。	本社マニュアルに沿っての勉強会は密ですが「職員同士でフィードバックし合う土壌が必要」としていますので、自己評価と相互評価の導入を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修にて、虐待の防止について勉強している。年1回の研修を実施。マスコミなどで話題になった事例なども会議の場で話した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の研修実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の読み合わせを行ない、不安や疑問点の確認を行っている。その後の問合せなどにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と、運営推進会議の場を利用して。年1回ではあるが、ご家族様アンケートの実施し意見の収集を行っており、その対応についても、しっかりとご家族様に対して報告している。	運営推進会議には当番制を敷いての参加が得られ、法人が執り行うアンケートに苦言が挙げれば速やかに改善しています。事業所便りを毎月発行、連絡事項のほか撮影写真をはじめ生活記録も併せて送っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議(1回/月)、ユニット会議(1回/月)意見を聞く機会を設けている。出た意見ですぐに対応できることは行い、検討が必要なものについては、本社を含め対応するようにしている。	契約社員は個々に面談をおこなっていますが、正社員は会議のほか管理者に直接相談があります。管理者に伝えにくい事はエリアマネージャを介する仕組みもあり、窓口がいくつかあり職員にとっては安心の態勢です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回本社にて職員アンケートを実施し、職員の意識調査を行っている。働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒社員については、本社にて研修を実施している。中途採用の職員については、静岡エリアにて集まる機会を設け、研修などを行っている。(基本的には法人内の研修実施)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛の家の系列グループにて、お互いグループホームを見学したりして、意見交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前のアセスメントで、ご本人様の情報を把握し、入居されてからの信頼関係を築いて行く事に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前の契約説明や、ご家族様との面接を十分に行ない、少しでも不安な気持ちが和らぐように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの1ヵ月後の更新時に、ご家族様と話し合いを行い、要望など確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や買い物、外出関係など一緒に出来る事は共に行ない、入居者様の意思も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院などの協力もお願いし、普段から体調面の連絡なども電話にて行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にアセスメントを行い、ご家族様の状況や名前(愛称、呼び方)、自宅の場所などについて把握し、ケアを行う中で活用できる様に行っている。	入居前のアセスメントではレイアウトや動線把握のためにも自宅を訪問しています。昔よく食べたカツ丼を味わいに馴染みの食堂を訪ねたり、面会に訪れるひ孫へプレゼントできるよう職員も作品づくりを手伝っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時の席や、普段過ごされる時の席の配置など、入居者様の性格や相性、性別なども考慮し決めている。特に新しい入居者様が来られた時は、配置には気を使っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡先などはしばらくの間連絡先の中に保管し、いつでも連絡が取れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議にて話し合いを行い、ケアプランへの反映を行っている。現場スタッフからの意見を大切にしている。	“そのため、におこなうことはなく、テレビや新聞を見ながらの何気ないやりとりのなかで「行ってみたい」「食べてみたい」の言葉を拾うとともに、「記録は極力本人の言葉で」と職員には指導しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅へ訪問し、部屋のレイアウトの確認を行い、ホームにて環境の変化が極力少なく済む様に考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々記録し、排泄から睡眠、バイタル測定など、1日の様子などを把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて話し合いを行い、モニタリングについては、常時記入できる様に各ユニットに対象者の用紙を置き、自由に記入できる様にしている。	本人の言葉、家族の想いが丁寧に挙げられた介護計画書で、取組み内容についても「ありがたい言葉をさりげなくスキンシップしながら感謝の気持ちを伝える」と、新人にも分かり易く明示していることを視認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を毎日記入し、色々な気づきや変化を記入している。それらの結果をユニット会議で話し合い、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や、通院介助への対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近年近所にできたお店(ティーショップ)など、皆さんが楽しく外出できる場所なども探しながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される時に、かかりつけ医の確認を行い、現状の医師を希望される場合はそれを尊重し、ご家族様の協力を得る事も確認している。現在もホーム協力医以外へ受診している方も数名有。	数名を除き大半が協力医に変更していますが、医院に関わらず家族が受診支援をおこないません。事情があれば職員が代行しますが、家族にはバイタル表を渡し、結果は口頭で職員に伝えられ介護記録に残されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、週2回(月、木)の勤務である為、看護申し送り簿へスタッフが記入を行ない、それに対して看護師が回答するような形でコミュニケーションを取っている。スタッフ全員が目を通している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し介護サマリー(会社指定書式)を病院側に提出し、情報提供を行っている。病院へ出向き、入院中の状況把握にも努め、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様へ説明を行ない、書面にて同意のサインを頂いている。	医療連携体制、看取り加算算定事業所ですが、受入れには①医師との合意②適切な人員配置③家族の協力体制④かかりつけ医の協力、すべてが揃うことを必要としています。また看護師が常駐ではないため2名以上の看取りも難しいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に避難誘導訓練を行っている。現在は入居者様、スタッフの参加のみで行っている。地域参加の訓練も検討していきたい。	消防署へも届け出て年2回実施していますが、署員の立ち合いはありません。公園での炊き出しもある地域防災訓練には管理者が出向き、所内訓練には自治会長が見学にはいつてくださっています。	「利用者はベルに対しての動揺が少なく、危機感をもつことに課題を感じた」とのことですので、計画の中には是正策を取り入れていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自個室にて生活されており、居室に入る時は声掛けを行ない、ご本人様の了承を得て入室している。言葉掛けについては、相手に不快な思いをさせない事を基本として指導している。	『(入浴での)脱衣時は肌の不必要な露出を避けバスタオルで覆う』『お名前には～さん』といったハウスルールはあるものの、家族や本人から「○○ちゃんと呼んでほしい」との希望があれば添っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の雑談の中や、入浴時に介助に入った際の一対一になった時、希望を伺ったりして色々な意見や意思表示が出てくるような配慮をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても合同で行う事に偏りがちになってしまうが、個々の性格や出来る事を理解し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭や爪、髪型などには常に気を使い、整えておくことを指導している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全ての入居者様が関わる事は出来ていないが、食事の準備(ご飯の盛り付け、配膳、食器洗いなど)に色々関わられるように配慮をしている。	テレビを消し音楽を流して集中できる環境の中、職員も同じものを食べて味わいや季節の話で食欲に貢献しています。見守りが必要な人の真横では表情の変化に気づけないため座り方にも配慮していることが観えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社からのメニュー表をもとに食事を提供している。水分量については、バイタル表の中に項目があり、1日を通しての水分量を管理している。特に夏場の脱水予防について、水分チェック表にてしっかりと確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在、朝夕の口腔ケアを主に実施し、昼については自分で出来る方が自分の判断にて行う形にしている。(歯科医相談の結果)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて、1日の状態を管理している。記録をつけながら排泄パターンを調べ、トイレ誘導など行う中で、尿取パッドの使用頻度減少や廃止も検討している。	本人の意志に反してしまう可能性がある時間誘導は辞め、排泄表を参考に一人ひとりに合わせた支援を心がけています。観察力を発揮し、前かがみになると排尿できることに気づきパッド使用量が減った例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分、睡眠などの生活リズムなど、便秘症状に関わる事を理解し、実践しながら便秘予防に努めている。夕方の汁物の中に乳酸菌を入れ、便秘対策の検証を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯については、午後の時間帯を入浴の時間としている。(14:15~16:00位)日によって時間帯の変更(午前中や16:00以降などもあり)もある。すべての方が自由な時間帯に入れるわけではなく、以前からの検討課題である。	週に2~3回がめやすですが、衛生面を重視しつつも「回数より満足感」としています。また回数が増えてもいいし、拒否には足浴で対応したりと、本人本位に取り組んでいます。湯は毎回替えて清掃もおこない大変清潔です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居される前の自宅での生活パターンを把握し、日中の昼寝の時間を設ける方もおり、大きな変化や体調的な負担が無いように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の用法、量、種類、名称などが見られるように、各ユニットに投薬一覧表のファイルが準備してある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前のアセスメントにて調査し、ご家族様にも様子を伺い協力も依頼している。家事仕事得意な方は行って頂き、それぞれの方が得意とする分野を把握し行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日のイベントなどで希望の場所へ外出に出かけたり、普段の買い物では、希望のスーパー(えんてつストア)などへ出掛けたりしている。ご家族様とは、通院介助の時などを利用して、外出を行っている場合もある。	散歩は午前10時から公園や駅前の赤レンガ倉庫へとコースもほぼ定例ですが、近場への外出やレクリエーションは朝礼でその日の天気に応じて決めています。遠出は1~2ヶ月に一度計画書から作成し、話題になった場所や季節を感じられる処を選んでいきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で管理するといった事は、なかなか難しい方が多い。被害妄想がある方については、現在も対応に苦慮している部分もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方がいらっしゃれば事務所ににて対応している。手紙については、年賀状の交換を行っている方がおり、職員が一緒に手伝いながら作成したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時間はテレビを消して静かな音楽をかけて食事に集中できる様にしている。掲示物には、行事の写真や季節を感じて頂けるような物を取り入れている。	玄関には運宮雅進芸談メンバーで植えたというパンジーが愛らしく微笑み、家族の協力で畑には青々とした大根の葉も茂っています。朝陽が差し込むソファコーナーはレク作品のギャラリーとなり、たくさんの行事写真は面会家族が日常を知る手だてとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる空間としては、ご自分の居室を使用して頂き、食堂ではテレビを見たり、気のあった方とおしゃべりを楽しんで頂くような場として、ご利用頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅に訪問し、自室内の配置関係をホームでも再現できるようにご家族様にも相談し、心地よい空間となるように心掛けている。	「センターラグに座りテレビを見ていたので同じようにしたい」との新入居者家族の要望には、ラグの段差が転倒につながらないかを注視しつつ、これまでの暮らしが続くよう支えており、再現居室づくりに秀でていきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の身体的特徴(麻痺の有無、視力など)を理解し、導線となる部分には危険な物を置かない様に配慮している。ヒヤリ、ハットなども参照しながら安全な環境づくりを行っている。		